

モーナー氏逝く

英國天文學界の元老 Edward Walter Maunder 氏が死んだ。「死去」の報を見て自分は或るショックを感じた。去る1924年の末、自分は米國の遊學を終へて後、歐洲に渡り、十一月に英國 London を訪問した時、わざわざホテルに手紙をよこして、同二十六日の大英天文學會の例會に自分を招いてくれたのは Maunder 老であつた。「天界」第56號第320頁及び第339頁）。其の時、自分を紹介して同會の會員になるやうに推薦して、くれたのも勿論 Maunder 老であつた。歸國後も Maunder 夫妻は手紙をくれたりして、今日も英國に於ける最も親しい友の一人である。

Maunder 氏は1851年の生であるから、77歳を以つて逝つたわけである。1873年即ち年若く22歳の時 Greenwich 天文臺に入つて助手となり、當時 Airy 臺長の先見によつて創設された寫眞部に働き、後、太陽寫眞部に於いて専ら太陽黒點の撮影と研究とに力を盡した。第十九紀の末、既に黒點平均緯度の變化に注意して、有名な「蝶形圖型」を發表したのは皆人の知る所である。

Maunder 氏は又、1890年、大英天文學會を創立した一人であつて、此の意味に於いて同氏は現在の會員より、「會の父」として尊敬されてゐた。

1913年、Maunder 氏は、40年間勤續の後、Greenwich天文臺から退職し、閑地についたが、しかし、其の後、今日まで天文學會のためには常に盡力してゐた。

氏は天文研究者として、觀測のほかには著書も多い。「天界」第37號以下には海老氏の筆によつて、氏の聖書天文學が譯された。(山本)

駁者座 ϵ 星の減衰始まる

本誌第85號卷頭に記した駁者座 ϵ 星は愈々減衰が始まつたことが觀測された。近着のハーヴェート速報はがき第61號によれば、米國 Madison 天文臺で Stebbins 氏が光電光度計で測定した所によるに、去る一月廿二日から三月四日までの間に、此の星は徐々として 0.12 等級だけ下降したことが立證された。即ち一ヶ月につき 0.08 等級づつ下降する割合である。之れによつて此の星の下降は豫想よりも早く始まつたと言ふべきである。